



「孫が大人になったときにも光り輝く美しい島づくり」

沖永良部島では、厳しい地球環境制約の中でもワクワク・ドキドキ心豊かに暮らすため、過去6回のシンポジウムを通して、島の文化を創り上げて来た『5つのち・か・ら』を明らかにしました。これを未来のかたちにするためには何を考え、どのように展開するのか？ 9月3、4日に開催された「第7回シンポジウム」では、島内外の多くの方々と地元が光り輝くための具体的な答えを探しました。その中で行われたワークショップの内容など、一部を紹介します。

基調講演

本町にとっても先進事例となる取り組みについて、以下の3名の方が講演を行いました。



環境省大臣
官房会計課長
鳥居 敏男氏

「環境・生命文明社会の創造とつなげよう、支えよう
森里川海プロジェクト」



鈴廣かまぼこグループ
代表取締役副社長
鈴木 倅介氏

「なぜ、かまぼこ屋がエネルギーのことを考えたのか
〈地方創生はエネルギーの地産地消で〉」



株式会社アンカーリンク
ジャパン代表取締役
中村 圭一郎氏

「島の持続可能な観光を考えるこれからの地域らしさ、島らしさを実現するために」

パネルディスカッション



島の未来について、島内外のパネリスト達により、それぞれの立場からディスカッションが行われた。



高校生たちも新しいビジネスを提案。

分科会

島の文化を創り上げて来た5つのち・か・ら。沖永良部島の根底に流れる生活価値。これを現在の文化・文明の中にどう活かすことができるのか？ 5つの分科会で話し合いました。

食



食育、無農薬、おきのえらぶブランドがキーワード。島の食材を身近に感じてもらうために、島の素材を使った料理を日めくりカレンダーを作ったらどうだろう？

自然



自然との向き合い方を再デザインするとき。沖永良部が自然と人との共生の最先端モデルへ！

仕事



強制しない時間を意識的につくり、気持ちに余裕を持つことで、遊び心を育て、その中から新しいビジネスを生み出そう！

子ども未来



「夏休みのある一日」と題した劇を披露し、方言ラジオ体操や島の魅力を方言カルタで発表。

集い / 楽しみ・遊び・学び



島唄は方言の最後の砦。あしびの達人から楽しみながら学び、島の人たちを巻き込んでムーブメントを起こそう！

子どもや孫が大人になったときにも光り輝く美しい島であってほしい。共同体や自然を人となつなぎ直すような暮らし方を、もう一度この島でやらないといけない。
『自足するということ』は我慢することではなく、とてもオシャレな新しい豊かさの切り口になる。本当の島の魅力を探して発信することで、開かれた島づくりに繋がるのではないだろうか。
自足型の暮らしを目指すことで、ローカル（地方）が主役になる時代がやってくる！